

## 熊本地震災害ボランティア活動報告

2018年6月24日

熊本支援担当理事

所澤 いくみ

平成28年4月14日に起きました熊本地震の被災者の方々に対し、同年5月から2か月に1回の間隔で、学会からの支援と賛助企業様からのご寄付を頂きながら定期的に支援活動を13回行ってきました。活動目的は、熊本地震において、被災者のニーズを把握した上で、アロマセラピーを用いた支援活動を行い、心身の支えになる支援活動を行うことです。当初の活動拠点は、900人以上の被災者が避難生活を送っている熊本市益城町総合体育館でしたが、体育館の閉鎖に伴い、11月からは220戸ある益城町木山仮設団地での活動になりました。現在の状況として被災者は、倒壊した家を改築したり、家族がいる所へ引っ越したりと居住家屋数が減少し、仮設団地が閉鎖の方向になってきている状況です。これに伴い、活動当初に支援活動期間を2年間ほどと考えていたこともあり、活動を終了することにいたしました。

日本アロマセラピー学会の継続した定期的なアロマを用いた支援活動は、2016年9月にはボランティア団体の数が徐々に減る中で、被災者の方々や熊本復興支援を担当している熊本YMCAからも、喜ばれ、信頼をえている活動だと思えます。それは、当学会の特徴である医療職や研究者など多職種連携で支援ができることで、アロマトリートメントに限らず、様々な被災者のニーズに合わせた支援活動が可能であるからです。また、オイルを取り扱っている賛助企業様との協力体制も可能である特徴を生かして、長期的な支援活動計画を立案できる強みのある組織であるからです。

熊本地震ボランティア実行委員会を2016年9月に立ち上げ、2017年1月に熊本地震災害ボランティア活動ガイドラインを作成し、組織的に定着した活動をしてきました。活動するボランティアは、徐々に増え13名になり、活動回数を重ねる毎に、非学会員の医療従事者の方が、全員学会員になって下さいました。そこには、ボランティア一人一人が被災者の話を傾聴し、手足などのアロマトリートメントを優しい気持ちで触れることを通じて、多くのことを学ばせていただいたからだと思えます。木山仮設団地の集会所で活動し、さらに団地内を歩いて被災者とお話することで、その被災者の方の日常の姿から私達ボランティアが元気を頂きました。仮設団地と言う空間の中で、被災者同士が自然な形でお互い支え合って生きています。

学会ホームページの熊本支援活動には、ボランティアが毎回の活動報告を各々の職種や立場で感じたことを書いていますので、お読みいただければ幸いです。合わせて、熊本地震災害ボランティア活動ガイドラインも目を通して頂けるとありがたいです。

2年間、学会員の皆様からご支援をいただき活動をさせて頂いたことをボランティア一同感謝いたします。ありがとうございました。